

ブラジル 洪水はリンゴの生産と輸出に影響しない

[FreshPlaza 2024年5月17日](#)

ブラジルのリオグランデ・ド・スル州では、4月以降の豪雨により過去2週間にわたって洪水が発生し、同州の産業連盟 (Fiergs)によると、497の町のうち450町が被災し、大部分の産業が影響を受けた。残念ながら死者数は151人に上っている。洪水面積は2005年にニューオーリンズ市を襲ったハリケーン・カトリーナの被災面積を上回り、経済的被害は最近のパンデミックよりも大きくなると予想されている。

ブラジルの青果物輸出会社Tフルーツ社の営業・事業スペシャリストであるカロリネ・ヴィエシリ氏は州都ポルトアレグレからコメントし、同社では直接的な雨の影響は受けていないとしつつ、「この状況では、復旧は困難でゆっくりとしたものとなり、現代的な生活と気候変動に適応するため市街地とインフラについて賢明な再計画が必要である。度重なる厳しい気象現象は、これらの問題に取り組むことの緊急性と、危機の中でも新たなチャンスがある可能性を浮き彫りにしている」と述べた。

同氏は、農業関係では、リオグランデ・ド・スル州の果実生産は、リンゴ以外は主に地場市場向けであり、ブラジル全体の生産量と輸出量に大きな影響を与えることはないと言う。しかし、同州は穀物と家畜の生産、特に米の生産において重要な役割を果たしており、国内の生産量の約70%を占めている。政府は国内の価格上昇を抑えるため、コメの輸入を検討している。

同氏はさらに、「Tフルーツ社は、雨の影響を受けていない隣接のサンタカタリーナ州にある日系のサンジョ協同組合と提携したリンゴの輸出事業を継続する。物流上の課題、特にリオグランデ港を輸送に使用していたにもかかわらず、弊社は輸出をうまくやり続けた。弊社は、上半期にハスアボカドの輸出に注力した後、サンジョとの提携事業であるリンゴの輸入とブラジル全土での流通を強化し、別の長年の提携企業であるインターフルーツ社とのショウガの輸出を再開する計画である」と説明した。

洪水被災者を支援するための国際的な呼びかけ

ブラジル南部のリオグランデ・ド・スル州で発生した最悪な洪水の状況を毎日追跡している州の民間防衛局の最新の報告では、この洪水により151人の死亡が確認され、104人が未だ行方不明になっている。被災した自治体は合計461で、州内の数百の市町村が完全に浸水し、被害を受けている。避難所にいる人は合計7万7,199人、家を追われた人(避難民)は現在54万192人で、州全体で228万1,830人が影響を受けている。ブラジル当局は、初期の推定では多額の被害が出ているが、まだ救助活動が続いているとしている。被害を受けた町の中には、再建が必要なものもあれば、将来の洪水や自然災害を嫌って町の一部の移転を示唆しているものもある。

雨は止むことなく、州都ポルトアレグレの洪水を引き起こしたグアイバ湖の洪水水位は連日の豪雨で上昇している。専門家らは、降雨量にもよるが、水位が下がるのに数週間から1カ月かかる可能性があると言う。

国際赤十字は、被災地への人道支援を拡大するため、800万スイスフラン(884万ドル)の国際ドナー基金を募っている。リオグランデ・ド・スル州政府は、洪水被災者を支援する資金を調達するためのウェブサイトを運営している。

ヴィエシリ氏は、「弊社は、被災していないという立場を活かして、直接被災した人々や弊社の近隣の人々の復旧活動を支援することを目指している。弊社は、ガウーショの精神である困難からの回復力、勤勉さ、そして土地と祖先との深いつながりを重視し、物流上の問題にもかかわらず、我々が愛するポルトアレグレの街にとどまることを約束する。弊社は、危機を克服するために不可欠なガウーショと民間セクターの連帯と集団的努力を具体化する。また、このような時に受けた全国的な支援に感謝している」と述べて締めくくった。

執筆者: クレイトン・スワート

訳注 ガウーショ(ガウチョ)は、スペイン人と先住民やその他の混血の人々

翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。